

アワーミュージアム

第 32 号 2006 年 10 月 31 日発行



岩滝用水を訪ねて

ばん どう なお みち
坂東 直道 (友の会会員)

阿波市開ノ口地区に岩滝用水（上湧）^{うわゆ}とって、
岩山を掘削して造った約500mの隧道（トンネル）^{ずいどう}
がある。日開谷川に横堰を設けて水嵩を上げ、上喜
来地区180町歩に給水する用水路の起点である。こ
の地は阿讃山脈から流出した土砂の堆積した扇状地
で、これまで干害や洪水被害に絶えず苦しめられて
いた。岩滝用水の開削により安定的に水が供給でき
るようになり、畑地が水田化し、二毛作ができるよ
うになった。他地域住民からは羨望の眼で見られ、
近年、郷土史研究者や社会科学習の一環として児童・
生徒の見学が多いとのことである。トンネル出口に
石碑が建てられ、工事の概要が記されている。碑文
を解読し、トンネル調査の概要を報告する。

1 用水開削過程（碑文より）

石碑正面には「水神宮」と大書され、工事の時期・
理由・世話人の名前等が記されている。

当村御用水之儀天保元庚寅年迄日開谷村徒井筋以



図1 隧道出口と石碑

懸樋引水路然且旧田畝以―――。

当村の用水は、天保元（1830）年まで日開谷村の
井筋から懸樋を使って水路を引いていた。しかし、
もとの田は入り組んで、これを灌漑するには不十分
であった。20日ほど干天が続くと水が乏しくなるの
で、勝柄谷口から新たに岩嶽を穿ち抜く計画をした。
そこで、その旨を申請したところ、役人は直ぐに許
可した。翌年春には、領主から費用が下された。住
民は続けて工事をし、141間（254m）の水路を開いた。
下に主要な人物の名を記し、慎み深く尽力した功績
を顕彰するものである。ことさらに文を記した。誰
もに簡単に読ませ、善行の人たちが用水路開削の事
業を起こしたことを教えるためである。



図2 石碑 正面・左右側面に工事概況を記す

開基（開祖）4名 肝煎（世話人）4名
 百姓総代1名 石工棟梁備前文右衛門
 石碑左側面には、弘化四丁未年大洪水付添井手屍成候分大破及再応御普請奉願上。

弘化4（1847）年、大洪水のため堰に沿ってゆがみが生じた。さらに割れて大破した。再び、直ちに普請を申請したところ、工事を仰せつけられた。翌年春、110間（198m）掘り添えた。前のに代えるには規則を以て行うべきである。

御用水裁判（用水の管理者）4名 総代2名
 石工1名
 石碑右側面には、慶応二丙寅年八月末洪水付冗功相成其上年々毎出水大破壊及其由奉

慶応2（1866）年8月、洪水のため役に立たなくなった。その上、毎年の出水のために激しい破壊に及んだ。その旨を嘆願した。

明治4（1871）年、47間（85m）を新たに掘り添える普請を仰せつけられた。費用の3割は地元から拠出したものである。

水利肝煎3名 総代1名 石工2名

2 隧道の実測結果と概要

掘られた隧道の岩質は砂岩と泥岩の互層となっている。隧道の全長は483m。取水口を0mとすると、30間（約50m）ごとに隧道内に堆積する土砂排出と、明かり取りとして横穴が6カ所掘られている。掘り間違えたと思われる穴も2カ所あり、コウモリの巣窟となっている。隧道内の広さは場所によって違うが、幅約2m、縦約1.2～2.5mである。

隧道内には、天井の所々に小さな鍾乳石が見られ、ユビナガコウモリが群棲している。側壁にはヨリメグモ・チビホラヒメグモ等の蜘蛛が、水中にはマシジミ・サワガニ・カワヨシノボリ（ジンゾク）等の生息が確認されている。

3 土地所有の一極集中化

市場町役場に、明治20（1887）年より土地所有状況を記録した「固定資産課税台帳」がある。それによると、岩滝用水開基として記されている二人の家

が良田をほとんど所有している。明治20年以降にも田畑を買収し続け、所有地を拡大している。聞き取り調査によると、年貢の取り立てに関係して土地を手放し、自作農から小作農に転じたと言われている。大俣村誌（昭和30年発行）によると、高率の小作料が課せられ、農民は働いても働いても浮かばれることはなかったとして、^{たんあ}反当たりの平均収穫量と法定年貢が記されている。

本県では藩政時代以来、裏作の麦にも米の7割の小作料が課せられたのは、他府県では例のないものだった。昭和21（1946）年1月26日、農林省告示第14号で農林大臣の指示する^{ぶつのおかんさん}物納換算基準価格は、田一反につき1石6斗～1石である。それに対して上喜来地区の平均反当たり収穫量は1石6斗～1石で、収穫はほとんど年貢として徴収されていたようだ。用水の開削で水田化が進むにつれて、地主層対自作農・小作農の対立軸が明確になってきている。昭和22（1947）年の農地改革によりオール地主化し、農地所有の格差は解消された。

4 岩滝用水の現況

昭和35（1960）年以降、阿波用水・北岸用水が敷設され、岩滝用水の必要度は減じたが、今なお地域に欠かせぬ用水として利用されている。隧道開削というとても先人の苦勞と功績が、農民生活にいろいろな影響を与えたが、開削から175年を経た今も多くの人に利用されていることで、開削の意義を再確認している。現在、小学校社会科郷土資料としても紹介され、小学生が先人の苦勞と功績を学習してくれていることを、たいへん嬉しく思っている。

参考文献

- 1 市場町史（市場町役場 平成8年）
- 2 大俣村史（大俣村役場 昭和30年）
- 3 固定資産課税台帳（市場町役場 明治20年起）
- 4 徳島県農地改革史（船橋治 不二出版）

遠近法の錯覚

いしはら すすむ
石原 侑 (友の会会長)

名神高速道路の京都南ICのすぐ西に、鴨川に架かる「小枝橋」がある。この小枝橋の東が、戊辰戦争(鳥羽・伏見の戦い)の始まった地点である。次の2枚の写真はここで撮ったものだが、これを見て、何かおかしいと思われたり、気づかれたりすることはないだろうか？



図1



図2

図1は、向かって左から「道標→解説の立て札→戦跡の標石」の順に並んでいるように見えるが、これが図2では「道標→戦跡の標石→解説の立て札」の順に並んでいるように見えるのである。写した時には全く気がつかなかったが、帰って引き伸ばした写真を見て驚いた。なぜ、並び方が変わったように写ったのだろうか？

博物館紹介 (県外編)

新設の九州国立博物館探訪記

なかしま よしお
中島 世志男 (友の会会員)

一度は見ておきたいと願っていた、『漢委奴国王』印(金印)に出会うために、昨秋開館した日本で4番目の国立博物館である九州国立博物館(福岡県太宰府市)へ行ってきた。

陽春の3月5日、好天の朝9時、西鉄太宰府駅から続く参道は人波が途切れず、菅原道真を祀る太宰府天満宮の庭は、馥郁と香る梅また梅の樹でいっぱいだった。当然、梅見の客と話題の博物館目当ての人で溢れていた。

土産店を抜けて本殿を参拝した。毎年3月5日には「曲水の宴」が催されるとかで、棧敷が組まれていた。その横を迂回して庭園を一巡りすると、ビルの10階もあろうかと思われる博物館直通の巨大エスカレーターが出現した。一度に軽く100人は乗れそうで、長いドーム状のエスカレーターを上ると、すぐに展示場入口があった。とにかく広く、何もかもが大型だった。

山の斜面をくり抜いてつくられた感じの博物館らしく、「今、入場券を買ったら、開館記念特別展第2弾『中国美の十字路口』と一緒に見学できる。」というので、特別展から見ていくことにした。特別展の



■交通案内 西鉄太宰府駅から徒歩約10分
福岡空港からタクシーで約30分

- 本券は一枚につきお一人様一回限り有効です。
- 入場日に限り、4F「文化交流展」もご覧になりますので、半券をご提示ください。
- 本券の払い戻し、再発行はいたしません。また、再入場は出来ません。
- 本券の転売は固く禁止いたします。
- 会場内混雑の際はお待ちいただくことがあります。
- 会場内では係員の指示に従ってください。
- 会場内では、他の観覧者に迷惑のかかる行為はご遠慮下さい。

九州国立博物館
〒818-0118 福岡県太宰府市石坂4-7-2
TEL: 092-918-2807
http://www.kyuhaku.jp
■お問い合わせ 西日本新聞社事業局企画事業部
「中国美の十字路口」事務局
TEL: 092-711-5550
(平日9:30~17:30)

特別展「中国美の十字路口」チケット表(左)と裏(右)

パンフレットには、「国家一級文物（中国国宝）133件を含む210件。史上空前のスケールで一挙公開！！本展は、唐王朝へむかってトップスピードで突き進む時代の、ダイナミックな中国美術を集めた初の展覧会です。・・・」と書かれていた。また、九州国立博物館内にも、「東西と南北の交流軸が生み出した、壮大な中国美術の世界をぜひご体験ください」ともあり、東アジアに向けて開かれた、日本の西の玄関口のこの地に^{はま} ^{やく} 嵌り役の企画のように感じた。

さて、金印はどこだ。実は‘海の道 アジアの路’4Fの文化交流展示室に展示されていたのであるが、どうやら常設展示室内の「稲づくりから国づくり（弥生・古墳時代）」というコーナーの中心になっているらしく、大きなガラスケースの真ん中に展示されていた。

「えっ、これが？」。金印の小さいことに驚いた。驚く程に小さい2cm角ぐらいの金色の印鑑が、拡大鏡の下に置かれていた。『漢委奴国王』印の文字も読みづらく、その上、レプリカと^{ただ} 似書きされているから、それなりの事情があつてのことだろうが、^{あこが} 憧れのマドンナの姿に微妙に揺れた複雑な感慨。でも、逢えただけで幸せかも。^{さくほう} 冊封関係の証として、^{あかし} 文書交換の折に封印するものなのだ。多分、未使用だろう。当時の倭には文字がなく、おそらく漢という王朝の権威を、あまねく行使するための象徴として^{かし} 下賜されたのかも知れない。本居宣長など、江戸時代の研究者を刺戟し、また、^{にせもの} 偽物説まで飛び交い、一時はそれを信じて打ち捨てられそうになったとも聞く金印だが、来て良かった。

海の道が開かれた九州・博多湾。志賀島は身近な出土地であり、見に行きやすい。「なぜこの地に埋まっていたのか？」「魏志倭人伝の奴国と、どのように関係するのか？」読み進めていきたい話題を、この小さな金印は秘めている。

友の会行事報告

雑草の名前を調べる会 バッタの観察会

- ◎日 時 8月27日(日) 10:00～12:00
- ◎場 所 徳島市八万町 園瀬川河川敷
- ◎日 程 9:45 集合、活動の打ち合わせ
10:00 雑草の名前調べ・バッタの観察と採取
12:00 解散
- ◎行事担当者 和田 賢次(友の会役員)
- ◎参加者 13名
- ◎概 要

残暑が厳しい中での行事となったが、園瀬川を涼風が吹き抜け、心地よい2時間であった。

参加人員は少なかったが、プリントやバッタの釣り道具など、和田さんの周到な準備と現地での解説により、バッタの種の見分け方をはじめ、いろいろな昆虫の名前を知ることができた。また、水辺を中心にして、和田さん・茨木学芸員から草花や雑草についての解説もあった。参加会員の中には親子連れの方、ご夫婦で参加された方もあり、団らんで、ともに楽しい時間を過ごすことができた。

参加者の声

- ^{ながの} ^{きみえ} 長野 君江(友の会会員)

覚えられない程のたくさんの雑草の名前(タチスズメのヒエやシマスズメのヒエ、イヌビエ、クサイニワホコリ、オオニシキソウ)をいろいろと説明していただき、興味津々で暑さも忘れておりました。また、いつか文化の森周辺に咲く山野草の名前なども教えていただきたいと思っています。

これからの季節、夜になると「ジージー」と低い声での大合唱が聞こえてきます。その季節になると、いつも何が鳴いているのだろうと思っていましたが、その名も「クビキリギリス」と教えていただきました。これからは、「クビキリギリスが元気に鳴いてい



雑草の名前を調べる会・バッタの観察会(園瀬川河川敷)

一泊研修

「戦国城下町 一乗谷への旅」

◎日 時 9月23日(土)～9月24日(日)

◎場 所

滋賀県：滋賀県立琵琶湖博物館

福井県：一乗谷復元城下町(朝倉氏資料館・朝倉氏館跡庭園)

若狭三方縄文博物館・福井県立若狭歴史民俗資料館

御食国若狭おばま食文化館

◎日 程

9月23日(土)

7:00 文化の森発

10:30 琵琶湖博物館見学

15:00 一乗谷復元城下町見学

(朝倉氏資料館・朝倉氏館跡庭園)

18:00 宿舎「ラポーゼかわだ」着

9月24日(日)

8:00 宿舎「ラポーゼかわだ」発

9:30 若狭三方縄文博物館見学

11:00 若狭歴史民俗資料館見学

13:30 御食国若狭おばま食文化館見学

18:30 文化の森着

◎行事担当者 多田 精介(友の会役員)

◎参加者 41名

◎概 要

戦国大名朝倉氏の拠点「福井・一乗谷」の栄華跡を復元した町並みや朝倉氏資料館をはじめ、上記の博物館・資料館・食文化館を見学した。伏見城や姉川・賤ヶ岳古戦場・鯖街道・越前若狭の歴史などについて長谷川学芸員の解説を受けながら、初秋の近江路、若狭路の風景を車窓から楽しんだ。また、「ラポーゼかわだ」の夕食では、福井鯖江地方の味に舌鼓を打つとともに源泉の温泉につかり、旅の風情に浸った。

参加者の声

◎伊勢 ひとみ(友の会会員)

お天気にも恵まれて、楽しい2日間でした。歴史は不得手なのですが、詳細な資料やビデオなどを用意してくださり、とても理解しやすく、いい学習ができました。

次回は友だちも誘って、ぜひ参加したいと思います。

◎遠藤 眞包(友の会会員)

久しぶりの研修旅行を、2日間楽しく過ごさせていただきました。歴史探訪が好きで、何度でも行きたいと思っています。また、素晴らしい計画をされますようお願いいたします。

一腹案ですが、瀬戸内の村上水軍巡りなど、いろ

るな。」と親しみを込めて虫の声が聞けそうです。

◎林 タキ子(友の会会員)

暑い中にも秋隣の風が吹き抜ける河川敷。バッタやキリギリスは苦手な私だけど、草には興味津々。すぐ忘れるくせに、名前を聞きまくった。

特に良かったのが水辺。ガマが穂を付け、エビモ・カナダモの花が揺れ、雑魚が泳ぐのを見て感動。信州梓川のバイカモや、見るたびに埋まっていく大正池に思いを馳せた。

◎行成 正昭(友の会会員)

一般にカブトムシやクワガタムシ、チョウなどは人気が高い虫の代表ですが、バッタはそれ程好まれる虫ではないのかも知れません。しかし、講師の方のつぼを押さえたご指導で、この仲間も大層興味深い対象になりました。また、バッタの主要な餌は、ふだん雑草として嫌われるイネ科の植物ですが、それらにも親しみを覚えるようになるから不思議です。

参加した大人の方々、そして子どもさんも暑さを物ともせず、我を忘れて大きな捕虫網を手にし、バッタを追いかけて回したり、足下の植物を夢中で探しています。このような光景を堤の上から眺めた通行人は、奇異の念を抱いたかも知れません。しかし、私たちは、こんな小さな河川敷にも(一括りにしてバッタと呼んでいますが)、実はいろいろなバッタが生息しており、また、よく似ていても、細かい部分が異なる多種のイネ科植物が自生しているのを知ることができました。これは大きな収穫でした。

自然が大切であることは頭で解っていても、そこにどのような生き物が棲み、どのような生活をしているのかは、あまり知られていません。それを知ることなしに、自然を理解していることにはなりません。今回のような行事は、楽しい上に得ることが大きいことを実感することができました。

◎綿谷 春代(友の会会員)

子どもの頃や子育て中に、子どもたちと虫たちを追いかけて遊び尽くした頃を思い起こしてくれました。また、細やかな説明を受け、生き物たちが愛しく思えました。我が家の草花の葉を穴だらけにするバッタ類に対しても、「まあ、いいか。」と思えるようになりました。

いろと考えます。今、一乗谷の旅の復習をしております。

○加古 吉文（友の会会員）

博物館友の会行事・普及行事を心待ちにしている一人ですが、16年9月の『蜂須賀氏の故郷を訪ねて』一泊研修は、最も忘れられない研修でした。中でも、「関ヶ原古戦場跡、国宝・犬山城、徳川家康生誕の岡崎城、正勝の本拠地・蜂須賀城跡、家政生誕の宮後城跡など」は、強烈に脳裏に焼き付いています。徳島藩主としての蜂須賀氏についてはよく知られていますが、出身地での活躍の跡を見る機会はほとんどなく、幸運の限りでした。

さて、あのような一乗谷あいの小地頭であった朝倉義景が浅井長政と連合し、信長・家康軍と姉川で戦って敗れ、自刃して果てた根性には、ただ感服するのみです。先般の勝瑞城の三好義賢館の庭園発見時、朝倉館の庭園や大内館の庭園が新聞報道されましたが、実のところ、期待していた程の規模ではなかったと感じました。一方、館や町並みを大々的に発掘した一乗谷のような中世遺跡を見たのは初めてで、遠方はるばる訪ねた値打ちがあり、今後の歴史勉強に生かしたいと思います。

来年の一泊研修の希望の一つとして、松茂町の三木家と関わる三木長治（三木城主）関係の史跡見学を希望します。

○片岡 ツルエ（友の会会員）

一泊研修に参加するのは初めてでしたので、期待と不安でいっぱいでしたが、皆様のおかげでいろいろな知識を広げることができ、本当に楽しい2日間を過ごすことができました。



縄文時代の杉の大株（若狭三方縄文博物館）

琵琶湖のナマズ、琵琶湖の大きさ、朝倉氏の興亡の儂さ、存在感のある縄文杉、縄文土器の数々、若狭の食文化、鯖街道。そして、美人と長寿のおまけまでついた温泉につかり、日常の忙しさから離れ、ロマンあふれる世界に浸ることができ、心に残る思い出ができました。来年も元気に参加できることを楽しみにしております。

○川上 左恵子（友の会会員）

文献の収集では、大変お世話になりました。名も知らなかった一乗谷の歴史に浸ることができ、幸々なひとときを過ごさせていただきました。2日目も有意義な館を見学させてもらいました。今後もできるだけ参加したいと思います。

○川辺 節子（友の会会員）

観光旅行では味わうことのできない有意義な名跡で時を過ごさせていただいたこと、また、ご多忙中にもかかわらず立派な資料を作成していただいたこと、思い出深い印象がたくさん残った2日間でした。

日々の思い出にと、下手ながら少々携帯電話に収めて帰りました。足を痛め、一乗谷の山の遺跡は全部見られませんでした。下から皆さんが上っているのを眺めることで満足しました。

○日下 静代（友の会会員）

秋も深まって参りました。一乗谷への旅では行き届いたお世話を賜り、行く先々の歴史と文化に触れ、感動の2日間となりました。

殊に一乗谷の復元城下町を目の当たりにし、戦国の世への関心が深まりました。心から御礼申し上げます。これからの博物館行事への参加を楽しみにしています。「この谷の古語り 曼珠沙華」

○久次米 義文（友の会会員）

まず、今回の普遍性はないけど興味を引かれ、かと言って個人ではなかなか行けない地への研修旅行を企画され、且つ素晴らしいレジュメまで作っていただいた関係各位の炯眼とご努力に対して、深甚の謝意を表して止みません。

前は抽選に外れましたが、今回は参加させてもらうことができ、おかげさまで十二分に見聞が広められ、楽しく勉強させていただ

き、喜んでいる次第でございます。また、皆さんとも和氣藹々^{あいあい}の旅をすることができましたことも嬉しい限りでした。

○桑内 隆^{くわうち たかし}（友の会会員）

いつも楽しみにしている研修の旅、今回もいろいろと見聞を広めることができました。

琵琶湖博物館では、固有の魚類（大きなピワコオオナマズやピワマスなど）が水族館のように展示され、おもしろく見ることができました。

一乗谷朝倉氏遺跡についてですが、北陸の雄としての朝倉氏の100年に及ぶ本拠地にしては、案外狭い各筋だったのが第一印象となりました。

文化的にはかなり発展していたようですが、地勢的に見て、激変する戦国時代には不十分なようにも思えました。三方縄文博物館では縄文時代の全体像を見ることができ、大きな収穫でした。

○島 美代子^{しま みよこ}（友の会会員）

学芸員、役員の方、事務局の親切なご指導のもと、素晴らしく充実した2日間でした。また、会員相互も和氣藹々に勉強ができました。資料も分かりやすく、大いに興味が湧きました。今度は、もう少しゆっくりと見学したいと思います。

初めての一泊研修でしたが、楽しく過ごしました。早くも次回を期待しています。

○東 條 知賀子^{とうじょう ちかこ}（友の会会員）

何の予備知識もなく参加させていただきましたが、一乗谷の朝倉氏遺跡を目の当たりにして、戦国時代の様子がおぼろげに分かってきました。教科書で習うより現場に立つ重要性を感じ、日本史にも興味が湧き、おもしろくなってきました。

○中島 世志男^{なかしま よしお}（友の会会員）

放送大学で、今期「アーツ・マネジメント」を履修したので、研修旅行ではその成果を見学の視点にした。公の博物館・文化施設などが運営や業務との関連において直面している実態を垣間見たが、その厳しい環境^{たいじ}に対峙して、実に様々な相違と工夫が行き届き、地方の文化水準が高いレベルで維持されていることを実感した。

とくに印象深いものが、若狭三方縄文博物館だった。その外観のユニークさ、展示室の必ずしも豊富

とは言えない収蔵品を工夫して見せる不断の努力が感じられて、梅原 猛^{うめはらたけし} 初代館長のイズムが体现されていると思った。もう一つ、「ドーセント」と呼ばれるボランティアの展示解説員を博物館友の会会員が担当していて、私たちのガイドツアーをしていただいたことである。わずか37名位の会員数と伺^{うかが}ったが、よく訓練されており、私たちのこれからの博物館との関わりについても、多くの示唆^{しき}を与えてくれているのではないかと感じた。いずれにしても楽しかった一泊二日の研修だった。

○西田 素康^{にしだ もとやす}（友の会会員）

戦国城下町の朝倉氏遺跡については、以前より関心がありましたが、今回参加させていただき、「本当に良かった。」と心から喜んでおります。

「栄枯盛衰は世の習い」とは言えど、約430年間眠っていた遺構が目前に再現され、歴史の重みと深さを痛感し、散策しながらもいろいろ考えさせられました。周到な企画と充実したレジュメ、加えて適切な解説に感謝の思いでいっぱいです。越前と若狭の歴史を自分なりに満喫した楽しい旅でした。

○松家 京子^{まつか きょうこ}（友の会会員）

私は学生時代から地理や歴史にはかなり疎^{うと}くて、一乗谷がどこにあるのか、そこを支配した朝倉氏はいつ頃の時代の人なのか・・・と、無頓着なまま参加させてもらったのですが、懇切丁寧な資料を準備してくださったので時代背景をおぼろげながら知り、福井県のこの辺りなんだなあと理解できました。

今回は、何か所も見学することができて良かったのですが、いずれのところも短時間だったので、何だか慌^{あわ}ただしい感じがして、見逃したものが多かったのではないかしらと思います。私のような何も知らない者には、勝手ながら、「この博物館ではここがお勧めです。これだけはじっくり見てください。」というようなご案内をお願いしたいと思います。（すみません）

琵琶湖博物館では、久しぶりにドジョウに出会えて、ちょっとした感激でした。一乗谷復元城下町では、500年も前の暮らしを垣間見ることができ、暮らしに差はあったにせよ、将棋の駒^{こま}、碁石^{ごいし}、茶の湯の道具などの出土品からも、当時の文化水準の高さを知

り、驚いてしまいました。そして、何よりも最高だったのは、天候に恵まれ、一番気候の良い時期の旅だったことです。

○松本 修 (友の会会員)

- 1 琵琶湖博物館 スケールの大きさに驚く。淡水の生き物に興味を持ち、見学した。
- 2 一乗谷復元城下町 歴史の勉強に大いに参考になった。
- 3 若狭三方縄文博物館 杉の大きさに驚いた。
- 4 若狭歴史民俗資料館 学芸員の説明が非常に分かりやすく、とても良かった。
- 5 御食国おばま食文化館 各地方の食生活がよく分かった。

文化の森の県立博物館と比較ができて、とても興味深い旅であった。2回目だったので、知っている

人もいて楽しかった。来年も、できたら参加したい。友の会事務局の研修資料が、非常に参考になった。



記念写真 (若狭三方縄文博物館)

新刊のご案内



徳島の銅鐸

—初の徳島県内出土銅鐸ガイドブック!!—

今回、徳島県立博物館が発行する徳島の自然と歴史ガイドシリーズの第5弾として『徳島の銅鐸』が刊行されました。これは、徳島県内出土銅鐸のうち、所在が明らかな32点すべての写真を掲載した、はじめての徳島県内出土銅鐸のガイドブックです。

友の会会員特別価格 720円 (定価800円)



海人の見た世界

—知られざる伝統文化発見!—

11月26日まで開催される企画展の図録です。

- I 歴史に綴られた海人—過去と向き合う
- II 語られる海人—自然と向き合う
- III 描かれた海人—世間と向き合う

友の会会員特別価格 900円 (定価1000円)

No.32

October
2006
Tokushima
Prefectural
Museum

徳島県立博物館友の会会報

アワーミュージアム



第32号

2006年10月31日発行：徳島県立博物館友の会
〒770-8070 徳島市八万町向寺山 徳島県立博物館内
TEL 088-668-3636 FAX 088-668-7197
E-mail: mus-fukyu@mt.tokushima-ec.ed.jp